



「ひとまかせ」から「当事者意識」へ ～そのカギは身近な生活の中に～

社会教育スタッフ 社会教育主事兼企画幹 品川 智成

桜の花が満開の今年 4 月、母から聞いた話です。

高齢者福祉施設に入居している友人のところに出かけた母は、自力では寝起きできない友人をベッドから起こして車いすに乗せ、窓際へ連れて行きました。いつも天井ばかり見上げている友人の気晴らしにと、外の景色を見せたかったのです。特に桜の花を見せてあげたかったのですが、残念ながら、その窓からは桜の花は見えませんでした。その様子を見ていらっしやった施設職員の方が、
「まあ、残念じゃねえ。誰かあそこに桜を植えてくれんかねえ。」
と、つぶやきました。

つぶやきの真意はわかりませんので、良いとか良くないとかいうことではありません。ですが私は、職員の方のつぶやきが心にひっかかり、どうしても気になってしかたありません。晴れない気持ちでもやもやしていましたが、しばらくして気持ちがずっと晴れました。それは、以前、社会教育委員研修会の講演で聞いた、「自分たちのことは、自分たちでやろうという、依存しない社会づくりが今求められている。」ということや、最近見聞きする機会が増えた、「主体的に課題を見つけ、様々な他者と協働しながら、答えのない課題に粘り強く向かっていく力」（島根県教育委員会が示した、島根の子どもたちに身につけてもらいたい力）のことを思い出したからです。私が引っかかっていたのは、「誰か」という“ひとまかせ”の姿勢だったのです。

おりしも、島根県公民館連絡協議会では、地域づくりに主体的に参画しようとするひとづくりを進めるために、「学び」や「つながり」をつくる公民館活動の充実や公民館機能の強化を支援することを目的に、「しまねのめざす“地域力”醸成チャレンジプロジェクト」に取り組んでいます。今年度、益田管内からは、10館の公民館がチャレンジされます。このプロジェクトをとおして、地域を支える“当事者意識”をもったひとが増え、つながりあうこと、地域のために楽しみながら本気で一肌脱いでくださる素敵で大人の姿を子どもたちが見ながら育つこと、さらに、大人と子どもが共に主体者として活躍することで、次世代への好循環を生み出すことが期待されます。公民館のチャレンジを益田市・津和野町・吉賀町教育委員会と一緒にあって応援していきたいと思えます。

実は、最初の母の話には、続きがあります。

しばらくたって、再び友人のところへ出かけたときのことで。ベッド脇の棚に飾られた見慣れない写真に目がとまりました。それは、満開の桜の写真でした。
「きれいじゃろう。あの後、あの職員さんがその写真を持ってきてくれんさったんよ。うれしゅうて、涙が出たあね。ちいと元気になったような気もするんよ。ありがたいことじゃ。」
友人は、本当にうれしそうに、母にお話しされたそうです。



特別支援教育支援専任教員の配置について

学校教育スタッフ 特別支援教育支援専任教員 城市 玲子

今年度から特別支援教育支援専任教員が教育事務所に配置となりました。その趣旨は、「小中学校の教員が抱える特別な支援を要する児童生徒の学習指導や学級経営等の課題の迅速な解決を図るため」とされています。また、「学校からの相談に対して迅速に対応し必要に応じて継続的に支援する」ということが、支援専任教員の役割としてあげられています。各学校のニーズをお聞かせいただき、児童生徒の実態や校内の状況にできるだけ合わせた方策を一緒に考えていきたいと思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。専用電話が設置されていますので、直接電話でお申し込みください。【TEL 0856-31-9606】

市町の教育委員会と連携して相談を進めていきますので、教育委員会を通してご相談いただくこともできます。学校によっては派遣指導主事が同行することがありますし、単独で訪問することもあると思います。どうぞ、小さいことでも相談していただければと思います。

さて、特別な支援が必要な児童・生徒に対しては、様々な方法で支援がなされていることと思います。ここで、特別な支援について基本的なことを振り返ってみましょう。

- 落ち着いた雰囲気の中、互いに個性や違いを認め合えるような学級づくりをする。
- 学習に参加しやすいように、児童生徒の特性に応じた配慮をしながら授業づくりをする。
- 時間を意識し、見通しを持った行動ができるように働きかける。
- 児童・生徒主体の目標を職員間で共有し、児童・生徒の変容や指導の成果を振り返る。
- わかりやすい指示のもと、他人からの援助を最小限にしたなかで、児童生徒が自分でできることを増やす。

このような支援を受けることにより自分なりの目標を達成することができれば、児童・生徒は「やった」「できた」と心が弾み、豊かな情感を味わうことができます。

反面、「児童・生徒の実態把握のもと、関係機関とも連携し、できるだけ支援はしているが、良好な変容が見られない」「保護者の理解は得られているが、日々の学習や生活への参加のしにくさは一段と歴然となっている」といったことも実際あるのではないのでしょうか。効果的な支援の糸口が見つからないのは、お互いに息苦しいものです。ここで解決方法を論じることはできませんが、児童・生徒はどんな状況に置かれても、わかりたい、伸びたい、仲間に入りたいと願っているということを忘れてはならないと思います。

- 安心して思いを巡らしている時、脳が活発に動く。
- 支援が必要な児童生徒は、自尊心が高く傷つきやすい。
- さりげない支援の積み重ねが、学習参加を大いに助ける。
- 周りの者が口に出すことによって支援が始まり、その積み重ねが体制となる。

分かりきったことばかりとは思いますが、支援方法や体制を考えていく上で何かのヒントになれば嬉しいです。これからの相談活動では、市町教育委員会、特別支援学校、教育センター等関係機関と連携し、少しでも学校のお力になりたいと思います。

タブレットがもたらす新しい学びのカタチ

益田市教育委員会 派遣指導主事 中尾 瑞紀

益田市と東京学芸大学、東芝クライアントソリューションが共同で「タブレット端末を活用した新しい学びによる地方創生プロジェクト」に取り組んでいます。本事業では、匹見中、匹見小、安田小、道川小（28年度）の4校が研究実践校としてタブレット端末を活用した授業に取り組んでいます。事業は2年間実施され、本年度は2年目にあたります。

本事業では、「タブレットがもたらす新しい学びのカタチ」が研究テーマになっており、タブレットの活用を通じたアクティブラーニングの追求をしています。事業1年目での実践や成果については、リーフレットで紹介（dynaSchool（教育ICTソリューション）に掲載されています。

https://dynabook.com/business/jirei/jirei_1.html）しており、昨年度学校にも配布させていただきました。

取組の成果として、子どもたちの「主体的で、対話的な学び」の促進に、タブレットが有効に機能することが分かってきました。先月の17日から行われた「教育ITソリューションEXPO」でもその取組の一端を発表しました。本稿では、タブレットの導入（児童生徒1人1台）において起こった「先生と子どもの変化」について報告します。



1. 子どもの変化

(1) 子どもが動く、どんどん使う



○タブレットを持ち、立って、指をさして説明する。記録に残し、質問や説明の根拠にする。

(2) 写真に残すことができる



○学びを切り取る。写真に撮ってその後の学習に活用する。家庭学習につなげる。

(3) 集中力が高くなった



○課題にじっくり向かい、自問自答の時間が増えた。低学年の活用も有効。

(4) 子ども同士・先生との対話が増えた



○子ども同士の対話が自然に生まれ、頭の位置が近くなる。



○教師との対話では、課題を共有し一緒に考えることが容易に。待つことにもつながる。

2. 先生の変化

(1) 単元をつなげた授業構成に変わった

①振り返りの方法が変わった (右の写真)

本時の学びを写真に撮り、ソフトに貼り付け、振り返りを文章で記入します。

本時の要点を整理するとともに、家庭学習や次時の学習につなげていきます。



②家庭学習が変わった

タブレットの持ち帰りにより、家庭学習と本時の学びとのつながりが生まれた。

③授業がつながった

1時間の授業で完結するのではなく、次の授業につなげることで子どもの主体的な学びへと変化した。これを支えたのは、授業の構成を単元で考え、単元計画に家庭学習の内容も位置付けたことである。

(2) 先生たちのタブレットに対する考えが変わった

「何に使えばいいの?」「アプリはないの?」「負担が増えそうだ」から、タブレットは使える道具に変化した。

(3) 授業のカタチが変わった

■「普段の学習+ α 」の α がタブレット活用 ■タブレットは道具

平成30年度は益田市小学校情報機器更新にあたります。情報機器の整備・更新は予算上、限られた中でいかに有効なものにするかが鍵だと思います。本事業の成果や課題から得たものをフィードバックして、より分かりやすく、楽しい授業が行える環境づくりを目指していきたいと考えています。その1つがタブレットの可能性です。本事業は、本年度も続きますので、実践校の取組に注目してほしいと思います。本年度も研究実践校（匹見小・中学校、安田小学校）での授業公開があります。後日お知らせしますので、ぜひ実際の様子をご覧ください。

連携・協働しませんか？

各学校の今年度の研究の取組が進んでいます。各校の実情に合わせて工夫した取り組みがなされていると思いますが、行き詰ったときなどは他校の取組から得られることも多いのではないのでしょうか。同じような内容・教科で研究を進めている学校どうして連携や協働、情報交換をしてみませんか？

平成29年度 益田教育事務所管内 研究主題(小学校)		
学校名	研究主題	主に研究する教科等
益田小学校	かかわり合い、高めあう子どもの育成 ～道徳の時間の充実を通して～	道徳
高津小学校	学習に喜びを感じ生き生きと取り組む児童の育成を目指して ～学校図書館の活用を通して～	国語・社会・総合
吉田小学校	かかわりをとおして 考えることを楽しむ算数の授業づくり ～学んだことを進んで学習や生活に活用しようとする児童をめざして～	算数
吉田南小学校	互いに認め合い、温かい人間関係をはぐむ特別活動の実践 ～みんなで創る学級活動～	特活
安田小学校	子どもの声でつくる深い学びができる算数科の授業の在り方	算数
鎌手小学校	主体的に自分の考えを表現できる子の育成 ～算数を通して～	算数
真砂小学校	ふるさどが好きになる真砂っ子育成 ～ふるさとのよさを生かし、ふるさととつながる活動を通して～	総合・生活
豊川小学校	友達との対話を通して学びを深める児童の育成 ～複式学級の学びの場づくり・算数科を中心として～	算数
西益田小学校	見通しをもち、筋道を立てて考え、表現する児童の育成 ～つけたい力を明確にして～	算数・国語
桂平小学校	主体的に他者に関わり、学びを深めることができる子どもの育成	算数
戸田小学校	仲間と共に考え、主体的に学ぶ子どもの育成 ～どの子も生き生きと輝く授業の創造～	各教科
中西小学校	主体的に学習し、確かな学力を身につける児童の育成	算数
東仙道小学校	複式・少人数学級において主体的に学ぶ児童の育成 ～説明文の学習を生かして～	国語
都茂小学校	互いに関わり合い、自分の考えを深め表現することのできる児童の育成 ～学びの集団作りを取り入れた算数科の授業実践を通して～	算数
匹見小学校	①言語活動を充実させるタブレットの効果的活動 ②児童一人一人の家庭学習の実態に応じた支援の在り方	各教科
津和野小学校	仲間と語り合うことを通して、主体的に判断し行動できる児童の育成	特活
木部小学校	実生活で生きてはたらく言葉の力の育成	教育活動全般
日原小学校	自ら学び、ともに高めあっていく児童の育成 ～算数科を中心に～	算数
青原小学校	自分の考えをもち、楽しく学ぶ子	算数
柿木小学校	自ら学び、表現し、ともに高まり合う児童の育成 ～ユニバーサルデザインの視点を取り入れた算数科の授業づくりを通して～	算数
七日市小学校	ねがいや目的意識をもち、自分を表現できる児童の育成 ～目的意識をもって読む活動に取り組み、よさを活かして表現できる児童の育成～	国語
朝倉小学校	「わかる」「できる」という思いを持ち、正しく読むことのできる児童の育成 ～つけたい力を明確にして～	国語
六日市小学校	すべての児童が全力で活動に取り組むために	教育活動全般
蔵木小学校	自らの学びをつくる子どもの育成	各教科

平成29年度 益田教育事務所管内 研究主題(中学校)

学校名	研究主題	主に研究する教科等
益田中学校	主体的な学びができるための効果的なグループ学習の探求	道徳・英語・家庭科
高津中学校	互いを認め合い、ともに向上していこうとする生徒の育成	各教科
益田東中学校	ともに学ぶ喜びを味わえる学校をめざして ～わたしがいる・あなたがいる・みんながいる！～	総合・各教科
東陽中学校	夢や希望に向かって、様々な人々との関わりを通して、主体的に学ぼうとする生徒の育成 ～授業の質の向上と家庭学習の習慣づけを通して～	各教科
鎌手中学校	自分を見つめ、目標に向かって主体的に活動できる生徒の育成 ～一人一人の学びの保障と充実～	5教科・キャリア教育
真砂中学校	見通しをもち、主体的に学ぼうとする生徒の育成 ～人とのかかわり、表現する力、やり抜く力を育む指導方法の工夫～	各教科・総合
横田中学校	確かな学力を身につけ、主体的に学ぶ生徒の育成 ～キャリア教育の推進や学習習慣の確立を通して～	各教科
西南中学校	自分の考えや思いをわかりやすく伝えることができる生徒の育成	各教科・総合・学活
小野中学校	自分の思いや考えを伝え合い、聴き合おうとする生徒の育成 ～学校教育活動全体を通して～	教育活動全般
中西中学校	確かな学力を身につけ、自ら学ぶ生徒の育成	各教科
美都中学校	言語活動を積極的に導入し、思考力・判断力・表現力を養う	各教科・総合
匹見中学校	一流の人間性を持った生徒の育成	教育活動全般
津和野中学校	未来につなげる学力と関係性を高める集団づくり	5教科・道徳・学活
日原中学校	主体的に関わり合い、意欲的に学ぶ生徒の育成	教育活動全般
柿木中学校	自己の向上のために意欲的に取り組む生徒の育成	各教科
吉賀中学校	「5C理論」で自己を高め、「善循環のサイクル」で人と関わる生徒の育成 ※5C chance challenge conscious continue change	各教科
六日市中学校	自らの向上を目指し、主体的に行動する生徒の育成	各教科・道徳・総合
蔵木中学校	自分の考えを豊かに表現できる生徒の育成 ～「できる」「わかる」を自信として～	各教科